

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	広島大学	整理番号	E02
プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	神谷 研二	プログラムコーディネーター	小林 正夫

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、本プログラムの採択当初の課題改善に真摯に取り組み、国内の関係機関との連携とともに国際機関とのネットワーク化が推進されるなど、世界に発信できる学位プログラムに向けて着実に進んでおり評価できる。学生については、アジア圏の多くの学生を引きつけるとともに、当初はなかなか得られなかった国内の医療系人材（医師、歯科医師）についても推薦入試制度を取り入れるなどの改善が行われ、優秀な学生の獲得につながっており評価できる。また、質保証については、年に一度の外部評価委員会による評価を受け、教育環境や教員の理解の改善を図るとともに、修士論文に代わる QE の導入やルーブリックによる学生の目標到達度の評価など、学位の質保証への取組が認められる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、特に、アジア圏の留学生は、国際シンポジウムや長期インターンシップにおける国際緊急被ばく医療と放射線治療行政の経験により、母国の放射線被ばく医療の責任者となり同国の被ばく医療の体制を整備する活動に従事し、活躍している者もいる。一方、日本人学生も、福島でのフィールドワーク等の研修が学生に明確なキャリアイメージを与え、国際的に活動しながら福島の復興に貢献するリーダーとして活躍する人材が育ちつつあることは評価できる。今後、IAEA 等の国際機関に修了者を輩出できるようにするためにも、修了者のフォローアップを行い、継続したキャリアアップへの支援を期待する。

事業の定着・発展については、学長のリーダーシップの下で、「広島大学大学院リーディングプログラム機構」が置かれ、その中で研究科横断型の学位審査体制による学位プログラムとしての継続が図られており評価できる。学生への経済的支援については、成績優秀者への奨学金支給や授業料不徴収等の大学としての努力に加えて、国際的な人材育成機関として活動するための必要な財源を多方面から確保する継続的な取組を期待する。